

I 期 (一般)

受験 番号	<input type="text"/>	氏 名	
	<input type="text"/>		

令和2年度

武蔵野大学 専攻科 言語聴覚士養成課程 入学試験問題 (7月28日)

[小論文]

午前中の「国語総合」の問題文の中に「悩み」というものは少しでも実体をはっきりすればするほど、その圧倒的なところが減ってくるものらしい。>という件(くだり)がありました。

リハビリテーションを必要としている方々の多くも、特に発病当初、まさに「実体のはっきりしない苦悩」を抱えていると言えます。

この件を踏まえ、さらに「生きがいを喪失している人への援助」という視点から、言語聴覚士として当事者の方々に向き合う上で留意すべき点(あるべき態度や言葉の使い方など)に関して、あなたの理念を述べなさい。

(800~1000字程度)